



平成8年  
1996

# 7.21 夏休み子ども特集号

宇治市政だより

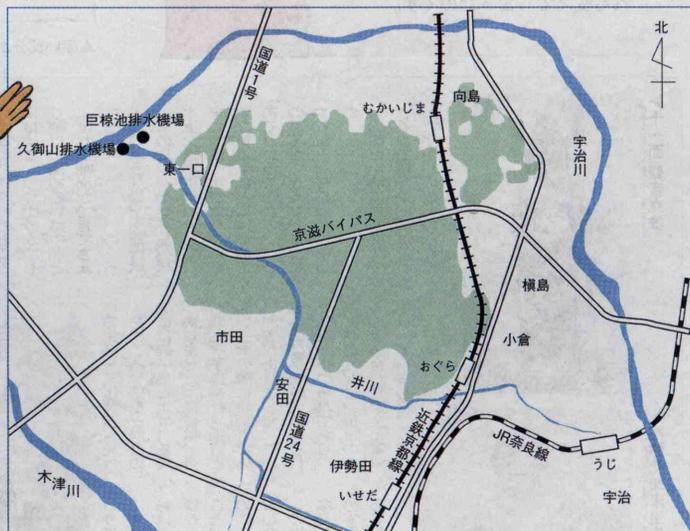
編集・発行：宇治市企画管理部広報課 〒611 京都府宇治市宇治琵琶33番地、☎(0774) 22-3141



おぐらいけ

## 巨椋池を知っていますか

つい60年ほど前まで、宇治市の西部、京都市、久御山町にわたって広がっていた巨椋池。この池は自然が豊かで、夏にはきれいな蓮の花が一面に咲き、それを見物にたくさんの方が訪れていました。周辺に住む人々にとっては農業・漁業など、生活になくてはならない池でした。しかし、大雨が降ると池の水が増え、毎年のように水害に悩まされていたのです。今では田畑や住宅地などとなり、その姿を知る人も少なくなったこの巨椋池について特集しました。



この図は、今の地図にうす緑色で巨椋池の場所を重ねたものです。池の面積はおよそ700ヘクタールで琵琶湖の10分の1ほど。といっても池の面積や形は時代によって違いましたし、大雨が降ったり日照りが続いたりすることによっても変わりました。



ここに  
の?



おぐらいけ  
巨椋池って  
いつから  
あったの?



▲山城国古図 (一部)



▲川を通じて京都や奈良、大阪、北陸を結ぶ交通のななめでした

私たちの住んでいる京都盆地と呼ばれる平野は、太古から京都や奈良にあった大きな湖でした。それらが湖に流れ込む川が運ぶ砂によって少しずつ埋められ、番低いところが池として残り、巨椋池となりました。

昔はもっと大きな湖だった

都から奈良に向かうには船で池を渡るか、陸を行くなら宇治橋を渡るしかなく、宇治は交通のななめとして発展していました。

秀吉が造った太閤堤・横島堤

今からおよそ四百年前、天を治めた豊臣秀吉は伏見に立派な城を築きました。雨が降り、流れ込む川の水が増え、大部分の水は池に流れ込み、それが淀み、流れ込んで、宇治川に堤防横島堤を造って、流れを伏見の港に近付けました。ついで京都と奈良を結ぶ通り道(奈良街道)にある宇治橋をわし、巨椋池を南北につなぐ太閤堤と豊後橋(今の鶴岡橋付近)を造り、新しく大和街道を設けました。これにより、人の流れは宇治を通らずに伏見を通り京都へ向かうようになったのでした。



▲の航空写真

池での  
くらしは  
どうだったの?



▲(ひたき)と呼ばれる漁法

大昔からあった巨椋池。豊臣秀吉はその池に人間の手による最初の大きな改造をしました。日本全国を統一していたからこそできたこの工事で秀吉は水だけではなく、人の流れも変えてしまったのです。



▲赤い部分が秀吉が作った新しい堤

えびすじま  
蛭子島の古仏



▲薬師如来坐像



▲十一面観音立像



▲阿彌陀如来坐像

大昔の宇治川は宇治橋を少し過ぎたあたりで、いくつかの流れに分かれ巨椋池に合流していました。分かれた流れに開かれたころにはすこすこ土砂がつもり続け、島あるいは中洲とよばれる地面ができてきました。

このような島や中洲には、洪水の危険がありました。水上交通の中継点として、また漁業や水がとさん必要な繊維業などには最適であるということから、いくつかの島々が生まれ、村をつくりました。

今から約四百年前に太閤堤ができるまで横島や向島はこうした宇治川の流れのなかにある生活・文化空間でした。そのころ、横島と向島の間には蛭子島とよばれる島がありました。島には、今も残る蛭子島神社(蛭宮ともいわれる)の隣に勝福寺というお寺がありました。このお寺には平安時代に作られた像がまつられており、島に住む人々は、毎日のように手を合わせ安全と繁栄を祈っていました。



# 行ってみよう 見ってみよう

巨椋池があったんだと聞いてみたところで、実際に行ってみないとわからないことがいっぱい。市内には池のあった時代の町並みが残っている場所があるんだ。百聞は一見にしかず。さあ出発しよう。



## 宇治川の古い川すじを行く 約4km

おくら 小倉～横島～宇治コース



▶大間堤を一部利用して線路がしかれました



▲西目川の集落。堤防の上に家が建てられました



巨椋池(おくら)拓田の地名は鴨沢、大池、新田島、蓮池など、池にまつわる地名がたぐさのこっています。そのうち千拓田の中にある西宇治公園が発源地です。この公園内には、昭和二十八年の大水害について書かれた石碑があります。大水の時、この石碑の上まで水が来たとあります。水害のこわさを知っておくために、一度見ておきましょう。公園を出て南へ進み、通称「山音道」を左に曲がります。まっすぐ行くと近鉄

きゅうやまとかいどう 旧大和街道を歩く 約5.5km

向島 横島 小倉コース

大和街道は豊臣秀吉が造った大間堤の上をゆく、伏見から奈良方面への近道。今でいつ「バイパス」です。向島駅と小倉駅の間の近鉄京都線は、大間堤の一部を走っています。向島からの道をたどってみましょう。向島駅を出て、少し南に行くと、堤防の上に西目川を集落があります。昔は漁をする人や水鳥をとる人、船を使って人や物を運ぶ人などが堤防の上に家を建て

大和街道を渡る巨椋神社の南側にあります。旧小倉村の集落です。左に曲り進むと、巨椋小橋があります。このあたりにには強脚が多く



て暮らしていました。ここから南に向くと、線路沿いから左にそれを、三軒家の集落に入ります。ここも堤防の上につられた家々です。街道の先いったん坂を下り府道(旧国道二十四号線)と交わり、また上っています。この高さの差から、堤防があったことがわかります。さらに道を進むと小倉の

旧集落へ入ります。この先大和街道は府道と並んだり重なりたりしながら南へ向かいます。向島、横島、小倉、田で奈良街道と合流して

昔ながらの家並が続く三軒家の集落

大和街道と奈良街道はここで合流

住んでいたそうです。巨椋神社の御旅所の手前の細い道を行くと、竹林の中の姪子島神社に着きます。

市民プール南側にあります。J.Aやましろ橋支店あたりに、室町時代の豪族横島氏の城があったといわれています。旧集落をめぐると、宇治川の堤防はすくなく、堤防の上を進むと終点、宇治橋で

さらにはたんぼの中の道を進むと横島の古い集落に入ります。おそ四百年前豊臣秀吉が堤防を造るまでは、宇治川は宇治橋下流でいくつかの流れに分かれ、直接巨椋池に流れこんでいました。横島、姪子島、向島はその名のとおり、宇治川によって造られた巨椋池の島だったのです。

▲巨椋池に流れこむ小川にかかっていたという巨椋小橋

▲横島城はこのあたりにありました  
▲横島の旧集落  
▲水運業や漁業をいとむ人たちの守り神がまつられている姪子島神社

歴史資料館 夏休み企画展

## いまとむかしの巨椋池

巨椋池の魚をとる道具をみてみよう  
池のまわりの町や村のようすを調べてみよう

9月8日(日)まで歴史資料館で開催中

□開館時間 9:00~17:00 □月曜・祝日休館 □入場無料

(主な陳列品) ダマル・マエガキ・モンドリ(いずれも漁具)、江戸時代の絵図、巨椋池や水害の写真、巨椋池フィールドワークなど

問い合わせ 歴史資料館(折居台1丁目1・☎20-1311)